

古文書整理 地域資源としての古文書を考える

静岡文化芸術大学 文化政策学部 水谷悟ゼミ・西田かほるゼミ

指導教員：水谷悟 西田かほる

参加学生：加藤那純 清水夢芽 谷口あゆ 野口琴葉 林晴海 前田唯那 山村奈央
味見美玲 清水萌花 鈴木美香 高橋駿輔 中澤舞 増田菜々実 村松明紀

1 要約

本研究は静岡県榛原郡川根本町千頭の殿岡家が所蔵する 8,000 点余にのぼる未整理文書の整理・調査を継続的に行うものである。殿岡家文書は、殿岡嗽石（1851—1933）によって蓄積された文書群を主とする。嗽石は千頭村戸長・榛原郡会議員・静岡県会議員を歴任し、金原明善とともに植林事業を行ったほか、山林経営、茶業組合、大井川鐵道の敷設、地域郵便局の開設・運営に関わりながら地域青年の指導に努めた名望家であった。本文書群は家史料としての価値を超え、当該地域の歴史・産業・生活を考える上で重要な「公文書」的性格を有している。本文書群を調査整理し広く利用できる状態にすることで、古文書を文化遺産として後代に伝えとともに、地域の方々と連携し古文書に記された情報や知見を地域資源として活用してもらうための基礎をつくる。

2 研究の目的

川根本町千頭の殿岡家が所蔵する古文書の調査を継続的に行い、概要目録を作成することで文書の散逸を防ぎ、地域資源としての古文書の活用方法を探ることを目的とする。

3 研究の内容

殿岡家には、現在、茶箱類 41 箱とタンスなどに収納された未整理文書が約 8,000 点余ある。これらの文書を誰でもが利用することができるように目録を作成する。目録作成にあたっては、収納単位ごとに簡単な保管情報の記録を作成した上で、文書を 1 点ごとに番号を付した中性紙封筒へ収納する。文書の内容や年月日・作成者・宛先などの情報を読み取って目録用紙に記入し、その後、目録の情報をデータ入力し、検索が可能な形にする。

調査をすすめる中で、殿岡家文書の分析をおこなう。調査中のミーティングにおいて注目すべき史料を確認しつつ、各人が興味を持った文書の翻刻や報告を行う機会を設ける。



調査作業風景

4 研究の成果

(1) 当初の計画

文書群の規模が大きいので、長期間にわたる調査が必要となる。4年目にあたる今回も未整理分の史料の目録を順次作成する。新型コロナウイルス感染症予防のため、調査は史料を大学に借り出し、土日を利用して複数回おこなう。新型コロナウイルス感染症の状況によるが、川根本町でのフィールドワークにもとりくむほか、川根本町の中学生や高校生が直接古文書に触れて地域の歴史を学ぶ機会を設けるとともに、調査成果の地域還元をはかる。

(2) 実際の内容

A：予定通り

文書調査は新型コロナウイルス防止の観点から、現地での合宿調査は行わず、大学に史料を借り出して行った。調査は5月28日・29日、6月18日・19日、10月29・30日、12月3・4日の計8日間、静岡文化芸術大学で行った。12月以降は、ゼミの終了後に各ゼミ単位で随時調査をすすめている。調査対象の史料は収納場所・収納単位ごとに番号を付しており（A-1～5、B-1～41、C-1）、今年度はB-15、16、17、20、21の調査を実施した。現地調査を実施できなかったため、12月に文書群の状況を理解するために現地に赴き、殿岡家において文書の保管状況の確認と、千頭地域の見学をおこなった。

1月10日には、川根高校の総合学習の時間に、学生が歴史学習の方法や史料調査の意義と方法について説明し、殿岡家文書などを使った古文書整理のワークショップを行った。



川根高校での授業風景

(3) 実績・成果と課題

今回の調査で作成した目録は、約1600点であった。各単位の点数、主な内容は下記の通りである。なお、文書は袋に入っていたり束ねられていたりしているため、枝番号まで含めると（ ）内の点数となる。

B-15-1～387 (933点)	幕末～明治期の借用証文、明治期の地所・立木など売渡証、書簡など
B-16-1～64 (203点)	書画類、江戸期の田地証文
B-17-1～642 (933点)	日露戦争出征兵士よりの書簡、経営・家関係諸書簡 大正～昭和期の嗽石日記
B-20-1～19 (42点)	大正期の貯金通帳、書簡（富士身延鉄道と日蓮宗身延久遠寺の契約）、 上川根村基本財産明細報告
B-21-1～44 (132点)	明治～大正期『日本国教大道叢誌』『榛原郡時報』『日本勸業銀行月報』



B-15 文書収納状況



B-21 文書収納状況

今年度の調査の詳細および研究内容については、2023年2月8日に学生、学外協力者2名による報告会を開催する。

(4) 今後の改善点や対策

合宿調査は難しい状況であるが、現地に足を運ぶ機会を設け、所蔵者や地域の方々とともに調査を進めるような工夫をしたい。

5 課題提出者・地域への提言

川根本町では、家の代替わりなどによる古文書の散逸や災害による滅失等の状況が深刻化しているように見受けられる。殿岡家文書に限らず、地域の古文書の保存活用に向けた取り組みが一層活発になるように、一緒に考えさせていただきたい。

6 課題提出者・地域からの評価

本年度も現地での調査はできませんでしたが、大学にて新たに約1,600点もの整理を行うことができたとのこと、感謝しております。

今回は、川根高校にてワークショップを実施していただきました。普段触れることのない本物の古文書に触れ、解読方法についてご教授いただき、史料調査の一端を体験させていただきました。最初は読み解く糸口を見つけることすら難しそうな様子でしたが、古文書への興味が徐々に高まっていく様子を感じました。短い時間ではありましたが、とても有意義な時間となりました。

(川根本町教育委員会社会教育課)